

しらかべ



2015年7月16日 人権・同和教育部発行

盛夏の候、保護者の皆様方におかれましてはご健勝のことと存じます。日頃は本校の人権・同和教育にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、今月号は6月に行った「人権・同和教育 LHR」での学習内容を学び終えた生徒の感想を中心に紹介します。ぜひ、ご家庭でお読みいただければ幸いです。また、LHR 後に家庭で話し合った内容や「しらかべ」をお読みい



ただいた感想や本校の人権・同和教育の取り組みについてのご意見などがありましたら、別紙返信用紙にご記入の上、1 学期保護者懇談の折に担任の先生にお渡しください。

「みるく世（ゆ）がやゆら」ー沖縄戦から 70 年ー

「今は平和な世の中なのではないでしょうか」という意味の沖縄県の言葉です。沖縄戦の戦没者 20 万人以上を追悼する「慰霊の日」に追悼式が行われました。その式で沖縄県の高校生が、戦争体験の記憶が遠く現状を憂い、平和を未来につなぐ決意を込めた「平和の詩」を朗読しました。彼の祖父の姉は沖縄戦で夫を失い、夫に先立たれた女性を歌った「軍人節」という歌を何十回も口ずさむ姿を見て、大伯母の気持ちに寄り添いたいと思ったそうです。その大伯母は 90 歳を超えて認知症が進んでいます。夫との思い出も、戦争の記憶も奪われようとしている。「忘れてはならぬ 彼女の記憶を 戦争の惨めさを」「伝えねばならぬ 彼女の哀（かな）しさを 平和の尊さを」と皆に訴えました。最後に彼は、「彼女の記憶を心に留めるみるく世の素晴らしさを未来へとつなぐ」と詠いました。

沖縄県糸満市摩文仁に立つ沖縄県平和祈念資料館には、

「戦争をおこすのはたしかに人間です

しかし それ以上に戦争を許さない努力のできるのも 私たち人間ではないでしょうか」

と記されています。平和を守っていくために、私たちは何をしていくべきなのか？本気で考えていかなくってはいけないのだと思います。

8月は「同和問題啓発強調月間」です

香川県人権啓発推進会議では、1965(昭和 40) 年 8 月に「同和対策審議会答申」がなされたことから、8 月を「同和問題啓発強調月間」と定めています。同和問題は、我が国社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分差別により、今日でも、憲法で保障されている基本的人権が十分に保障されていないという重大な社会問題です。同和問題の解決を図るためには、すべての人々がお互いの人権を大切にすることの重要性を正しく理解し、行動することが必要です。

この夏休みを、お子さまと一緒に人権について理解を深めるきっかけにしませんか。



2年生1学期の取り組み

人権講演会「ぬくもりを感じて」

講師 中倉茂樹さん

半袖ポロシャツにハーフパンツ姿で登場した中倉さん。「人権・同和教育っておもしろくないよな？」から講演はスタートしました。

中倉茂樹（なかくら しげき）さんは徳島県同和地区青少年団体連絡協議会『止揚（しよう）の会』事務局、また徳島県西部青年の会『友輝（ゆうき）』などに所属しており、同和問題について全国各地で多数の講演をされています。今年度2年生の人権・同和教育は同和問題に焦点をあてて取り組んでいきます。その第一弾として中倉さんを講師に招いて、講演会を実施しました。



これまでの人権教育ではどちらかというと抑圧型（言ってはダメなど）だったけど、今日の話を書いて、本当に人権を尊重するということが一人一人が意見を出し合い真正面から話し合い、ダメなことはダメといえるような和（輪）を増やすことだということに気がつきました。

（生徒の感想より）

中倉さんの冗談交じりの軽妙なトークに引き込まれ、あっという間の時間でしたが、中倉さんからのメッセージはきちんと受け止めてくれました。講演では、①中倉さん自身小学校時代にいじめられていたこと、②高校時代に自分が被差別部落出身だと人権集会で打ち明けると友人たちが温かく自分を励ましてくれたこと、③結婚する際に受けた差別がどのようなものだったかということ等を話してくださいました。生徒は、中倉さんのひと言ひと言に耳を傾け、真剣な表情でお話を聞いていました。そして、中倉さん自身のお子さんのお話から「親の幸せは子どもの幸せ」という中倉さんのメッセージを真摯に受け止めていました。

- ものすごく深く考えさせられました。よく母が「子どもの幸せが、親の幸せ」と言っていました。自分が親となった時、本当の意味が分かると思っていますが、今日のこの時間でなぜ親がそう思うかについては分かった気がします。（生徒の感想）
- いつも私のことを心配して見守ってくれているお母さんに厳しい言葉を言ってしまうたりして後悔したこともあります。中倉さんの言葉をきいて本当に反省しました。お互いにそれぞれの気持ちはあると思うけれど、そんな時こそお互いに思い合って相手の幸せを考えることが必要なんだと気づかされました。（生徒の感想）
- 今回このような学習を積み重ねながら、“すべての人が幸せになるための勉強”をより身近なものと捉え、大人も子どももすべての人が正しく学習していけたらいいなと思います。心の成長に役立つ時間をありがとうございました。（参加保護者の感想）

多くの生徒が心を動かされ、同和問題に関わる人権課題を自分のこととして捉えることができました。そして、さまざまな人と人とのぬくもりを感じる事ができたようです。このぬくもりがあるところに差別など生まれるのでしょうか。2学期以降は同和問題についての正しい知識を学び、ぬくもりの連鎖を広げていきたいと思えます。